

会 告

日 本 鉄 鋼 協 会 役 員

さる、4月4日開催の第63回通常総会において理事、監事、および評議員の選挙が行なわれました結果、次のごとく選任されましたのでお知らせいたします。

理 事 (任期2年15名)

荒木 透	上杉 年一	佐々木 進	田村 今男	松下 幸雄
池見 恒夫	片岡 修	坂尾 弘	西沢 泰二	山田 浩蔵
岩崎 兀	小関 伝	島田 仁	細木 繁郎	吉田 道一

監 事 (任期2年1名)

青山 芳正

評議員 (任期2年128名)

阿部 芳平	相原満寿美	青木 宏一	秋竹 守一	荒川 武二
有川 正康	有沢源之介	井上 道雄	伊木 常世	伊佐 重輝
伊藤英二郎	石川 志郎	石原 俊	石渡 鷹雄	乾 昇
入 一二	池田 芳蔵	岩井 彦哉	鵜野 達二	上田 俊二
上西 亮二	植田 三男	梅田 善司	小田部精一	小島 賢介
尾崎 知良	尾崎 良平	大柿 諒	大谷 正康	大森 正男
大森 康男	岡林 邦夫	岡本 利雄	奥村 虎雄	甲斐 幹
加納 安久	加藤 健	川口 三郎	河合 良一	河原 英磨
金田 義夫	金森 政雄	亀井 正夫	木下 亨	木下 昌雄
木村 康夫	久保 慶正	国井 大蔵	小林佐三郎	佐伯 修
佐藤 健二	佐藤 知雄	西郷 吉郎	作井 誠太	作田 裕宣
芝崎 邦夫	白井震四郎	白井富次郎	白石 裕	鈴木 驍一
芹沢 正雄	田島 治	田尻 鏌士	田中 稔	田中 良平
田部文一郎	平 修二	高木 秀夫	高野 廣	高橋 愛和
高松 俊夫	竹内 栄	武内 俊夫	武田 喜三	谷口 実
玉置 明善	千原 学	塚本富士夫	寺町 忠夫	土居 襄
豊田 英二	那須 重治	中園 長年	中坪 英一	中野 宏
中山 龍夫	永野 治	長島 晋一	橋口 隆吉	搞阪 力郎
林 俊太	林 泰	原田 実之	萬谷 志郎	日向 方斉
平野 順次	広 慶太郎	福田 宣雄	藤田 英一	藤本 一郎
堀 宗一	堀川 一男	堀田 正之	前田 正義	横田 久生
松尾泰一郎	松田 公扶	松田 信	松永陽之助	松本 栄蔵
的場 幸雄	丸山 益輝	三島 良績	三谷 裕康	鞭 巖
宗像 英二	盛 利貞	森 一美	森崎 晟	山内 仁
山地 健吉	山本 勝司	山本 博	安田安次郎	安永 和民
養田 実	吉崎 秀	和田 亀吉		

第 96 回 (秋季) 講演大会見学会・懇親会開催のお知らせ

本会は第 96 回秋季講演大会を昭和 53 年 10 月 3 日(火), 4 日(水), 5 日(木)の 3 日間, 富山大学で開催いたしますが, これを機会に 10 月 3 日懇親会, 4 日婦人見学会, 6 日(金)見学会を下記により開催いたしますので, 奮ってご参加下さいますようご案内いたします。なお, 講演大会の詳細ならびにジュニアパーティについては追ってお知らせいたします。

記

1. 見学会の申込について

期 日 昭和 53 年 10 月 6 日 (金) 2 班
会 費 1 班 2000 円 (含昼食費), 2 班 2500 円 (含昼食費)
申込締切 昭和 53 年 9 月 5 日 (火)

見学会参加申し込み上の注意

1. 見学会申し込みは本会会員に限ります。代理人の見学はお断わりいたします。
2. 申し込は 1 人 1 班とします。申し込み多数の場合は抽選により決定いたしますので希望順位を記入して下さい。
3. 各班は申込と同時に見学費をお払込み下さい。
4. 見学希望数が少人数の場合および見学先の突然の事情によりその班の見学中止あるいは行程を変更することがありますので, あらかじめご承知おき下さい。
5. 見学会が中止となった場合は, 会費を返金いたします。
ただし, お申し込みの取消は 9 月 14 日までとし, 以後は取消しの申し出があつても返金いたしません。
6. 各班とも工場内での写真撮影は禁止いたします。また見学コースを外れた行動を禁じます。
7. 見学費の領収書は見学班が決定後, 見学券とつしよに送付いたします。

2. 懇親会の申し込みについて

講演大会に際し全国各地からお集りになる会員各位の親睦の場として, 下記のごとく懇親会を開催いたします。会費などについてもより多くの方々にお気軽にご参加いただけるようにいたしました。

また, この機会に会員各位ご夫人同伴でご参加いただき, より明るい雰囲気 of 催しとしたいと思っておりますので, 多数ご参加下さるようご案内申し上げます。

期 日 昭和 53 年 10 月 3 日 (火) 18:00~20:00
会 場 電気ビル (富山市桜橋通り 3-1)
会 費 5,000 円 (同伴のご夫人はご招待いたします)
申込締切 昭和 53 年 9 月 5 日 (火)
参 加 券 領収証とともに申込締切後お送りいたします。

3. 婦人見学会について

期 日 昭和 53 年 10 月 4 日 (火)
コ ー ス 畠春斉工房, 老子製作所, 瑞竜寺等
会 費 5,000 円 (昼食代含む)
申込締切 昭和 53 年 9 月 5 日 (火)
参 加 券 領収証とともに申込締切後お送りいたします。

4. 申込方法

上記「申込み上の注意」をご覧のうえ, 別添申込用紙に必要事項を記入し, 会費 (現金書留) を添えお申し込み下さい。会費の添付されないお申し込み, 銀行振込みならびに郵便振替による申し込みは受付けない。

5. 申 込 先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館
(社) 日本鉄鋼協会 講演大会系 TEL (03) 279-6021

- 注) 1. 見学会, 懇親会申込書は本誌会告末 (クリーム頁末) に掲載いたしております。
2. 講演大会中の宿泊については N 111 ページに案内しております。

秋季講演大会見学会

工場・施設見学 10月6日(金)、婦人コース 10月4日(水)

申込締切 9月5日(火)

班別	見学場所	所在地	見学内容	見学時間	集合場所・出発時刻 解散場所・解散時刻	備考
1	*(株)不二越本社工場	富山市石金20	工具・軸受・その他	8:50~10:20	集合 (8:20) 出発 (8:30)	①参加費 2,000円 (昼食代含む) ②貸切バス (富山地鉄観光) 利用 ③昼食は新湊市内
	*日本高周波銅業(株) 富山工場	新湊市八幡町 3-10-15	特殊鋼	11:10~12:00 (昼食)	国鉄富山駅前観光バ ス発着場	
	*日本銅管(株)富山電気 製鉄所	新湊市庄西町 2-11-1	合金鉄 (フェロクロム)	13:30~13:55		
	*日本重化学工業(株) 高岡工業所	高岡市吉久 1-1-1	合金鉄 (フェロマンガン)	14:05~14:30		
	(株)老子製作所	高岡市金屋本町 3-7	肥料 鋳物 (鋳鉄・銅合金)	15:00~15:40	解散 (16:00) 国鉄高岡駅前	
2	宮村製箔(株)	金沢市北安江町 283	金箔	10:00~11:00 (昼食)	集合 (8:20) 出発 (8:30)	①参加費 2,500円 (昼食代含む) ②貸切バス (富山地鉄観光) 利用 ③昼食は兼六園
	†(株)小松製作所栗津工 場栗津工場	小松市符津町ツ 23	中小型ブルドーザー, 小型パ ワーシミュベール, 専用工作機械, 各種鋳鋼品	13:30~14:30	国鉄富山駅前観光バ ス発着場	
	†(株)小松製作所栗津工 場小松工場	小松市八日市町	大小各種プレス, 鋳鋼品	15:00~16:00	解散 (16:30) 国鉄小松駅前	
婦人 コース	畠春斎工房	高岡市金屋町	茶の湯の釜	9:30~11:00	集合 (8:30) 出発 (8:40)	①参加費 5,000円 (昼食代含む) ②貸切バス (富山地鉄観光) 利用 ③昼食は二上山
	(株)老子製作所 (二上山) (朝日山公園)	高岡市金屋本町 3-7 高岡市 氷見市	梵鐘・仏像・銅像・工作機械 万葉ライン (中食) 越中国府 跡・雨晴・松田枝浜・奈良の 浦朝日山公園・万葉遺跡藤波 神社	11:00~11:40 (昼食) 13:30~14:00 14:30~15:00	国鉄富山駅前観光バ ス発着場	
	瑞竜寺	高岡市関本町	国宝建築前田藩主利長公菩提 寺	15:40~16:10		
	高岡銅器販売所	高岡市	美術鋳物	16:20~16:50	解散 (17:30) 国鉄富山駅前	

- (注) 1. ※同業者お断わり, 工場内での写真お断わり。
†工場内場所によっては写真撮影お断わりすることあります。
2. 婦人コースは, 婦人に限らずどなたでも申し込むことができます。

第 96 回 (秋季) 講演大会コメントならびに質問募集案内

本会は、第 96 回講演大会を昭和 53 年 10 月 3 日～5 日富山大学で開催いたしますが、そのさい開催される討論会は下記の通りとなりました。本討論会の講演概要は本誌巻末に掲載いたしますので、内容ご覧のうえ講演に対するコメントならびに質問をご投稿下さいますようお願いいたします。

1. 投稿締切日 昭和 53 年 9 月 5 日 (火)

2. コメント、質問原稿 任意の用紙に、どの講演に対するコメントあるいは質問であることを明記し、ご執筆下さい。解答は当日会場で行なわれます。

3. 送付先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021

(なお、本討論会講演概要は本誌巻末に掲載されるのみですから、当日は当概要集をご持参下さるようお願いいたします。)

I 製鉄ダスト類の有効利用

座長 高橋 愛和

討 1 高炉温ダストの湿式分級法による脱亜鉛処理設備とその操業…………… '78—A91

新日鉄 八幡 戸田 秀夫

釜石 〇宇野 成紀, 大水 勝

光和精鉱 北沢 忠雄, 鉄原 棟方 雪郎

討 2 塩化揮発ペレット法による製鉄ダスト類の新処理法…………… '78—A95

新日鉄 八幡 小野 文雄, 菅原 欣一

光和精鉱 坪井 登, 〇芦谷 良一

討 3 製鉄ダストを原料とする還元ペレットの製造…………… '78—A99

川鉄鉱業 〇高橋 宏, 野住 一正, 松本 旭, 斉藤 良生

川崎製鉄 深水 勝義, 荒谷 復夫, 佐々木 晃

討 4 ロータリーキルンによるダスト還元鉄の製造…………… '78—A103

住友金属 本社 〇田中 義之, 山田 恭暉

和歌山 加藤 和正

中研 重松 達彦

鹿島 吉田 悦郎

討 5 SL/RN プロセスによるダスト還元ペレットの製造…………… '78—A111

鋼管鉱業 〇八浪 一温, 山本 亮二, 塩原 勝明, 萩原 恵一

鋼管 福山研 山岡洋次郎, 長野誠規

討 6 製鉄ダストによる還元ペレットの製造…………… '78—A111

新日鉄 室蘭 北村 卓夫, 〇永井 忠弘, 相馬 英明

光峰工業 室蘭 加藤 恣, 加藤 眞幸男

II スラブ連続における高速鑄造

座長 井上 俊朗, 副座長 川和 高穂

討 7 厚板用連続材の高速鑄造…………… '78—A115

住金 鹿島 植田 嗣治, 橋尾 守規, 丸川 雄淳

〇徳田 誠, 川崎 守夫, 木村 智彦

討 8 ウォーキングバー・カービリーニア型連続鑄機による高速鑄造について…………… '78—A119

神鋼 加古川 喜多村 実, 副島 利行, 小山 伸二, 〇二宮 嘉和

中研 森 隆資

討 9 厚板向スラブの高速鑄造とその品質について…………… '78—A123

川鉄 水島 〇児玉 正範, 小島 信司, 中井 一吉

千葉 反町 健一, 今井 卓雄

技研 垣生 泰弘, 野崎 努

討 10 高速鑄造の問題点と 2, 3 の試み…………… '78—A127

鋼管 福山 田口喜代美, 〇小谷野敬之, 山本圭太郎

福山研 宮下 芳雄, 宮原 忍

討 11 高速鑄造の内部割れ対策…………… '78—A131

新日鉄 八幡 中川 一, 打田 安成

大分 島 孝次, 堀 珊吉, 〇椿原 治, 山内 信一

III 表面処理鋼板の諸問題

座長 伊藤 伍郎

討 12 合金化処理した溶融亜鉛メッキ鋼板の腐食挙動…………… '78—A135

新日鉄 製品技研 門 智 〇三吉 康彦, 生明 忠雄

- 討 13 リン酸塩処理性に対する亜鉛メッキ鋼板の極表面層の影響..... '78—A139
新日鉄 基礎研 前田 重義, ○浅井 恒敏, 鈴木 堅市
八幡 樋口 征順
- 討 14 亜鉛上のタンニン酸処理皮膜の腐食抑制作用と皮膜構造について..... '78—143
新日鉄 製品技研 門 智, ○渡辺 孝
- 討 15 複合被覆鋼板の特性に及ぼす下地処理の影響について..... '78—A147
東洋鋼板 技研 ○神田 勝美, 林 芳夫, 近藤 嘉一
- 討 16 DI 成形性に及ぼすブリキ品質の影響について..... '78—A151
新日鉄 生産技研 日戸 元, 中野 寛文, 大八木八七
- 討 17 ブリキの塗料密着性におよぼす不動態皮膜の影響..... '78—A155
鋼管 福山研 高野 宏, 渡辺 豊文

IV 表面分析技術の進歩と冷延鋼板の表面物性

座長 白岩 俊男

- 討 18 冷延鋼板の IMA, AES 及び ESCA による表面分析技術..... '78—A159
新日鉄 基礎研 ○井上 恭, 前田 重義, 小林 尚
- 討 19 ぶりき原板の焼鈍過程における表面濃化現象について..... '78—A163
東洋鋼板 技研 ○吉岡 治, 西条 謹二, 乾 垣夫
- 討 20 冷延鋼板の表面性状..... '78—A167
住友金属 中技研 高橋 政司, 西原 実, ○藤野 允克
- 討 21 焼鈍による冷延鋼板表面への不物元素の濃化現象..... '78—A171
川鉄 技研 ○小西 元幸, 有馬与志広, 小原 隆史, 田中 智夫
- 討 22 純鉄 (100) 面上への S, O, P の停析挙動..... '78—A175
金材技研 ○吉原 一紘, 倉橋 正保, 新居 和嘉

V 低酸化ポテンシャル雰囲気中での耐熱合金の腐食と強度

座長 田中 良平

- 討 23 低酸化ポテンシャル下で Ni-Cr と Fe-Cr 合金上に形成される
酸化スケールの形態..... '78—A179
金材技研 ○武井 厚, 池田 雄二, 新居 和嘉
- 討 24 ヘリウム雰囲気中における耐熱合金の腐食およびクリープ挙動..... '78—A183
住金 中技研 榎木 義淳, 志田 善明, 吉川 州彦, 諸石 大司
- 討 25 弱酸化性ガス中での熱交換器用耐熱合金のクリープ強さと脱炭速度..... '78—A187
石播 技研 ○美野 和明, 山榎 義和, 大友 暁, 雑賀 喜規
- 討 26 ヘリウム中の腐食とクリープ特性における合金成分の役割..... '78—A191
原研 近藤 達男
- 討 27 32 Ni—20Cr 鋼の高温疲れにおよぼす雰囲気の影響..... '78—A195
新日鉄 基礎研 ○細井 裕三, 榊原 瑞夫, 斎藤千代寿

VI 鉄鋼の高温変形

座長 田村 今男

- 討 28 ねじり試験による低炭素鋼の熱間加工過程..... '78—A199
東工大 総合理工 中村 正久, ○堀江 史郎
大学院 野村 信彰
- 討 29 炭素鋼 (0.036~1.09%C 含) の高温強度と延性..... '78—A203
電通大 ○酒井 拓, 大橋 正章
- 討 30 Fe-Ni, Fe-Ni-C および Fe-Cr-Ni オーステナイト合金におけ
る動的再結晶挙動とその組織変化について..... '78—A207
京大 大学院 後藤 裕規, 吉岡 剛
工学部 ○牧 正志, 田村 今男
- 討 31 含N18Cr-10Ni 型オーステナイト系ステンレス鋼の高温引張延性
におよぼす介在物の影響..... '78—A211
日新 周南 星野 和夫, ○植松美博
- 討 32 熱間圧延におけるオーステナイトの再結晶挙動と圧延後の変態組
織について..... '78—A215
神鋼 加古川 梶 晴男
中研 ○町田 正弘, 勝亦 正昭
- 討 33 制御圧延鋼の強靱化作用におよぼす γ 培加工の影響..... '78—A219
住金 中技研 福田 実, ○橋本 保, 国重 和侵
鹿島 沢村 武彰
- 討 34 二相培域加工における変形挙動と組織変化..... '78—A223
鋼管 技研 山本 定弘, 大智 北良, ○大内 千秋

昭和 54 年春季 (第 97 回) 講演大会討論会

討 論 講 演 募 集 の お 知 ら せ

昭和 54 年春季 (第 97 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 高炉内現象の移動速度論的解析 座長 大森 康男

広い範囲の操業度にあつて高炉の安定操業を確保するとともに低燃料比を達成するために、炉内のガスおよび液の流れならびに炉内温度分布の制御が極めて重要視されている。これらの制御に密接な関連をもつ因子を広くとり上げ、流動、伝熱、物質移動またはこれら輸送現象をカップルさせた移動速度論の立場から掘り下げた討論を行ないたい。とくに鉱石、コークスおよび生成したメタル、スラグの炉内各位置における運動特性の把握、炉内各位置での通気抵抗あるいは湯溜部の通液抵抗などの評価、軟化・溶解帯 (融着・滴下帯) の状態および機能の解析、メタルの滲炭、異相間の S や Si の移行など主要な反応の総括反応速度の評価などにつき統一的理解を深めたい。各方面から多数の発表と活潑な討論を期待します。

2) 硫化物の形態制御 座長 大井 浩

最近鋼材の水素誘起割れの防止、靱性の向上および異方性の軽減などを目的とした製鋼過程における硫化物の形態制御技術への要望が高まっている。形態制御にはカルシウムや希土類金属等が溶鋼に添加されるが、新しい分野であるので未知の部分が少なくない。添加方法と歩留り、硫化物、酸化物の形態変化および上記の鋼材特性への影響などについて多くの論文の発表と活潑な討論を期待します。

3) 圧延のトライボロジー 座長 中島 浩衛

近年の圧延技術の進歩は著しいものがあるが、さらに新しいニーズにもとづく直送圧延、低温加熱低温圧延などの出現によつて高負荷高速圧延が採用されつつある。これらの新しいプロセス技術を支える重要な要素技術として、圧延技術の他に圧延ロールまたは工具の摩耗、寿命、圧延潤滑、および表面特性などのいわゆる圧延トライボロジー技術の課題がある。従来は個々の技術分野で論じられてきたが、本テーマは境界領域の問題として、各分野の技術者、研究者からの多数の論文の発表と学際的な討論を期待します。

4) 鋼の水素誘起割れと硫化物応力腐食割れ 座長 堀川 一男

近年、ラインパイプ材などに発生する湿性硫化水素による脆化割れが重要な問題となり、各方面で活潑に研究が行なわれているので、この際“鋼の水素誘起割れと硫化物応力腐食割れ”をテーマとして採り上げて討論することは大変有意義と考えられる。“脆化割れに及ぼす諸因子の影響”、“脆化割れの発生機構”ならびに製鋼まで含めた広い視野に立つた“防止対策”について、従来から現在に至る研究の成果を是非寄せて頂きたい。

5) 粒界の偏析と鋼の諸性質 (鉄鋼基礎共同研究会微量元素の偏析部会共催)

座長 長嶋 晋一 副座長 須藤 一

合金元素および微量元素の粒界偏析は鋼の性質にいろいろな影響を与える。近年になつて界面分析機器の発達、普及により粒界偏析が直接測定できるようになり、この分野の理解が著しく深まつてきた。今回は製造上の問題、製品特性の問題および使用上の問題について、下記の範囲においての発表および討論を期待する。

1) 鋼種: 低炭素鋼, 低合金鋼, ステンレス鋼, 特殊用途用高合金鋼 (超合金を含む)

2) 特性: 高温割れ (熱間加工性), クリープ, 低温脆性, 水素脆性, 応力腐食割れ, 焼もどし脆性など。

2. 申込締切日 昭和 53 年 8 月 7 日 (月)

3. 申込方法 「鉄と鋼」第 7 号会告末に綴込みの申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和 53 年 11 月 6 日 (月)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表、図写真を含め 1 頁 6,700 字) に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 65 年第 1 号 (昭和 54 年 1 月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 65 年第 2 号 (2 月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 54 年 2 月末日

前記 2 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

第 54・55 回西山記念技術講座開催のお知らせ

— 取鍋精錬技術と鋼材特性 —

主 催 日 本 鉄 鋼 協 会

第 54・55 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいませようご案内いたします。

I 期 日 第 54 回 東京 昭和 53 年 9 月 19 日(火), 20 日(水)

農協ホール (東京都千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階 TEL 03-279-0311)

第 55 回 室蘭 昭和 53 年 10 月 19 日(木), 20 日(金)

新日本製鉄(株)室蘭製鉄所本事務所 3 階講堂
(室蘭市仲町12 TEL 0143-45-3131)

II 演題ならびに講師

第 1 日	9:30~11:00	取鍋精錬技術の基礎	名古屋大学工学部	坂尾 弘
	11:10~12:40	取鍋精錬技術の総論	川崎製鉄(株)水島製鉄所	飯田 義治
	13:40~15:10	脱ガスプロセス	新日本製鉄(株)広畑製鉄所	松永 久
	15:20~16:50	脱りん, 脱硫プロセス	(株)神戸製鋼所中央研究所	成田 貴一
第 2 日	9:30~11:30	極厚鋼材の水素系欠陥とその欠陥防止熱処理法	(株)日本製鋼所室蘭製作所	大西 敬三
	11:40~12:40	取鍋精錬技術と厚板の特性	新日本製鉄(株)製品技術研究所	佐藤 誠
	13:40~15:10	取鍋精錬技術で製造されたステンレス鋼の特性	住友金属工業(株)中央技術研究所	小若 正倫
	15:20~16:50	取鍋精錬技術で製造された薄板, 表面処理鋼板の特性	新日本製鉄(株)基礎研究所	阿部 光延

III 講演内容

1. 取鍋精錬技術の基礎 名古屋大学 坂 尾 弘

最近における取鍋精錬技術の著しい発展は、精錬法そのものより、むしろ周辺技術によるところが大きい。しかし将来の発展さらには新技術の開発を計るためには、この精錬法を精錬の原点から見直してみる必要がある。本講座ではこのような観点から、取鍋精錬における物理化学について述べる。

2. 取鍋精錬技術の総論 川崎製鉄(株) 飯 田 義 治

Bochumer Verein 真空鋳造法を源流として開花した取鍋精錬技術をその発展過程から整理し、更に各プロセスについて鋳塊に要求される品質特性および精錬操作から見た分類を試みる。またこれらのプロセスによつて到達し得る鋼の品質レベル、経済性などから各プロセスの得失を評価し、取鍋精錬の今後の方向を考える。

3. 脱ガスプロセス 新日本製鉄(株) 松 永 久

戦後の製鋼技術の進歩は純酸素転炉法、連続鋳造法に代表される生産性の向上、工程の省略による原価低減のほか真空脱ガスプロセスの発展による品質向上も極めて顕著である。

本講座では、2次精錬の中で歴史的に最も古い真空脱ガスプロセスの発展経緯、それをささえた付帯技術の進歩、理論的背景、操業ノウハウの進歩など真空脱ガスプロセスの現況について概観するとともに、今後の発展の方向についても考察してみた。

4. 脱りん, 脱硫プロセス (株)神戸製鋼所 成 田 貴 一

溶銑, 溶鋼の脱りんおよび脱硫反応機構を整理し、脱りん, 脱硫精錬を企図した2次精錬プロセスの概要と問題点ならびに現在の製鋼体系下における取鍋精錬の意義について述べる。

5. 極厚鋼材の水素系欠陥とその欠陥防止熱処理法 (株)日本製鋼所 大 西 敬 三

極厚鋼材の水素系欠陥の発生は、鋼塊内に残留する水素と、鋼材熱間加工後の熱的取扱に強く影響される。

本稿では、まず最初に鋼塊間の水素の残留状態および極厚鋼材の水素系欠陥の実例を紹介し、さらに水素系欠陥防止法について述べる。

6. 取鍋精錬技術と厚板の特性 新日本製鉄(株) 佐 藤 誠

今日、各種の取鍋精錬技術が実用化され、高級鋼の製鋼技術ばかりでなく、量産鋼の特性向上の手段として、広く用いられている。ここでは各種取鍋精錬技術適用によるクリーン・スチール化や介在物形態制御が構造用厚鋼板の延性、じん性、溶接性などに如何に影響するかについて考察し、取鍋精錬の新技術適用による鋼材特性向上の現状と可能性について展望してみたい。

7. 取鍋精錬技術で製造されたステンレス鋼の特性 住友金属工業(株) 小 若 正 倫

オーステナイト系ステンレス鋼はその優れた諸特性のため広く装置材料として使用されている。しかし孔食、粒界腐食、応力腐食割れ等の欠点がある。一方フェライト系ステンレス鋼はこれらの欠点を補うことができるが、靱性加

工性、溶接性の難点がある。そしてこれらの諸特性には微量元素の影響が大きいことが知られている (C, P, S, N, O等)。

最近精製技術の進歩により、これら微量元素の低温が工業的に可能となり、特性の改善行なわれるようになった現状および問題点について述べる。

8. 取鋼精錬技術で製造された薄板、表面処理鋼板の特性 新日本製鉄(株) 阿部 光延

薄板には優れた加工性や非時効性が要求される。C・Nの低温、Mn-S-Oの量的バランスの調整などがこれら特性の向上に有効といわれ、そのほか REM, B, Tiなどが合金元素として注目されている。さらに薄板での耐錆性や表面処理鋼板のメッキ密着性なども成分元素と密接に関連し、ホーロー性や振動温衰能についても同様である。このような実用上の諸特性と成分元素との関連を中心にした話題を提供する。

IV 聴講無料 (事前の申込は必要ありません)

V テキスト代 3,500 円

VI 問 合 先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日 本 鉄 鋼 協 会 編集課 TEL 03-279-6021

「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

テーマ：耐熱鋼・耐熱合金

原稿締切日：昭和 53 年 10 月 16 日 (月)

工業の進歩とともに、高温で運転される機器・装置は次第に増加する傾向にあり、その運転条件も温度、圧力、環境などいつそうきびしくまた多様化しつつあります。それに応じてこの方面の材料に関するわが国の研究と開発は基礎と応用の両分野にわたり、著しい進歩がみられるように思います。そこで、今回は耐熱鋼および耐熱合金の高温特性と金属学的因子との関連に焦点をあて、今後のこの方面の一層の進歩に寄与できることを期待し、特集号を企画いたしました。この特集号には一応次のような分野を包含させたいと考えておりますので、独創的な論文あるいは技術報告のご投稿をお願いいたします。

- ・ 低合金鋼を含めたフェライト系・マルテンサイト系およびオーステナイト系の耐熱鋼、鉄基・ニッケル基およびコバルト基などの耐熱合金の材料学的または製造冶金学的問題
- ・ 高温変形、クリープ、高温疲れ、クリープと疲れの重量効果、熱疲れなど
- ・ 高温酸化、高温腐食など
- ・ 実構造物の静的・動的応力下での腐食と破壊およびそのシミュレーション

記

1. テー マ 耐熱鋼・耐熱合金
2. 原稿締切日 昭和 53 年 10 月 16 日 (月)
3. 発 行 鉄と鋼、第 65 年 7 号 (昭和 54 年 6 月号)
4. 原稿枚数 図、表、写真を含めて所定の原稿用紙
(論文) 50 枚以内 (刷り上り 10 頁以内)
(技術報告) 35 枚以内 (刷り上り 7 頁以内)
(執筆の仕方は本会投稿規程に従う)
5. 送 付 先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 F
日本鉄鋼協会編集課特集号係宛 (電) 03-279-6021
(注) 原稿表紙に「耐熱鋼・耐熱合金特集号」と朱書して下さい。

石原・浅田研究助成金交付候補研究募集要領

申請締切日・昭和 53 年 7 月 31 日

本会では鉄鋼の学術または技術に関する研究を補助育成する目的をもつて、石原・浅田研究助成金制度をもうけ、47 年度より助成金を交付しております。ついては今年度の助成金を交付すべき候補研究を下記要領により募りますので、交付希望研究者に協会所定の様式をもつて応募して下さい。

本会には、昭和 23 年以来故石原特殊製鋼株式会社社長の寄贈による石原米太郎研究資金が設定されておりましたが、さらに昭和 46 年 4 月株式会社神戸製鋼所から寄贈された浅田長平記念基金の毎年の金利の過半も研究助成金にあてることになりました。そこで、これらを一つにまとめて石原・浅田研究助成金として昭和 47 年度から交付することとしたものです。

記

1. 交付対象

鉄鋼の学術または技術に関する研究に従事する個人またはグループとし、研究者の年齢は原則として 40 才以下とする。(大学院博士課程学生も含める。)

2. 研究期間・内容

研究期間は助成金の交付を受けてから 2 年間とし、鉄鋼に関する学術あるいは技術への寄与が期待され、かつ着眼点または研究手法が独創的な研究とする。

3. 交付金額

総額 200 万円以内 (1 件約 40 万円、5 件程度を予定している。)

4. 申請方法

1) 申請者 研究者本人またはグループ代表者

2) 申請方法 協会所定の申請書にその内容を記載し申請するものとする。記載内容の概略項目は次の通りである。

- (1) 研究課題
- (2) 研究者氏名、所属、他
- (3) 研究の目的
- (4) 研究の実施計画、方法
- (5) 研究の特色、独創的な点
- (6) 従来の研究経過、成果または準備状況
- (7) 同種研究の国内外における研究状況
- (8) その他

3) 申請書請求および送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会総務部宛

4) 申請締切 昭和 53 年 7 月 31 日

5. 選考

本会研究委員会が選考内規に基づいて選考を行なう。

6. 交付決定通知

交付が決定した時は研究者名・研究課題を会誌に会告し、同時に研究代表者に連絡する。

7. 助成金の交付

本研究の助成金は研究者の所属する機関に経理を委託する。研究代表者が大学院博士課程の学生の場合には学生の指導教官を通じて所属大学に経理を委託するものとする。

8. 報告

本研究助成金を受けた研究者は、必ずその研究成果について 3000 字程度の報告書を作成し提出しなければならない。(研究期間終了後 1 カ月以内) また研究成果について発表する際には助成金を受けた旨明示する。

印刷物として発行された場合には、その送付をもつて報告書に代えることができる。

なお、助成金についての経理報告は省略することができる。

第 29 回塑性加工連合講演会

共 催：日本塑性加工学会，日本鉄鋼協会ほか
幹事学会：日本塑性加工学会

開 催 日：昭和 53 年 11 月 23 日～25 日（木～土）

会 場：日本大学生産工学部（習志野市泉町 1-2-1）

講演申込み方法：ハガキに「第 29 回塑性加工連合講演会講演申込み」と題記し，(1)講演題目，(2)所属学協会名ならびに会員資格，講演者氏名（連名者がいる場合氏名の前に*印を付すること）ならびに連名者・勤務先（略記），(3)講演部門の番号（下記参照），(4)講演概要（50字程度），(5)通信先（勤務先の場合は所属部課（科）など詳細に記入のこと）を明記のうえ，7 月 20 日までに下記日本塑性加工学会（幹事学会）あてお申し込みください。

- 注意
1. 講演申込みは 1 名（講演者）1 題目に限る。
 2. 講演者は共催学協会員に限る。（なお，連名者はその限りではない。）
 3. 講演申込み整理費
講演申込み 1 題につき「研究発表申込み整理費」として 500 円を申し受けます。また講演会聴講者（講演者，連名者も含む）から参加登録料〔会員 1,000 円，学生員 500 円〕を徴収いたします。

講演部門の分類番号

1. 理論及び弾塑性解析，2. 計測及び材料試験，3. 材料及び挙動，4. 工具，5. 潤滑，6. 加工機械，7. 圧延，8. 押出し，9. 鍛造，10. 引抜き，11. せん断，12. 板材成形，13. 転造，14. 矯正，15. 表面加工，16. 高速加工，17. 高圧加工，18. 接合，19. プラスチックの加工，20. ロール成形，21. スピニング，22. その他

講演申込み締切日：昭和 53 年 7 月 20 日（木）

講演論文原稿提出期限：昭和 53 年 8 月 31 日（木）

講演論文原稿：オフセット印刷とし，1927 字詰原稿用紙 3 枚以内（図，表，写真を含む）

執筆要綱，原稿用紙などは後日講演者あて日本塑性加工学会（幹事学会）よりお送りいたします。

講演申込先：社団法人 日本塑性加工学会

〒106 東京都港区六本木 5-2-5（トリカッビル）

電話 03 (402) 0849

第 10 回結晶成長国内会議（NCCG-10）

主催：日本結晶成長学会（JACG） 協賛：日本鉄鋼協会，ほか

日 時 1978 年 11 月 21 日（火）～23 日（木，祭）

場 所 京都市左京区吉田本町 京都大学工学部

招待講演

- (1) チャンネリングによる結晶評価

京大・理 万波 通彦

- (2) 光散乱トモグラフィ法による結晶成長の観察

学習院大・理 小川 智哉

- (3) 高分子結晶成長

京大・化研 片山 健一

- (4) サファイア上のシリコン単結晶膜の製法と性質

東芝・総研 安田 幸夫

一般講演 日本結晶成長学会以外の学協会ですでに発表されたものでも差支えない。

講演時間は討論時間も含めて 20 分の予定。

一般講演の申込手続

申込期限 1978 年 8 月 21 日（月）必着。申込者に予稿用原稿用紙を送付する。

申込方法 官製はがきに①題目，②要旨（2～3 行程度），③著者の氏名と所属（登壇者に丸印），④連絡先，を明記して NCCG-10 事務局（田中哲郎教室）

予稿原稿提出

提出期限 1978 年 9 月 14 日（水）必着

予稿の長さ 図，写真を含めて所定のオフセット用原稿用紙 1 ページ以内

予 稿 集 予稿集は日本結晶成長学会の会誌として発行し，会議前に会員に郵送するが，JACG 会員以外の参加者には会場受付で実費配布する。

参加方法

参加費 1,000 円を当日会場受付で支払う。

予稿集代金 実費（JACG 会員には無料で会議前に郵送する）。

そのほか 懇親会を会期中に開催する予定。

申 込 先（NCCG-10 事務局）

〒606 京都市左京区吉田本町

京都大学工学部電子工学科

田中哲郎教室内 NCCG-10 事務局

第 15 回分析化学講習会

—日本分析化学会中国四国支部創立 20 周年記念—

主催 日本分析化学会中国四国支部 共催 日本鉄鋼協会中国四国支部，ほか

主題 「微量成分測定の困難性とその対策」

期 日 昭和 53 年 8 月 24 日（木），25 日（金）

第 1 日 10:00～17:00 パネル形式による講義

第 2 日 9:30～12:00 特別講義

13:00～17:00 分析機器実動展示

会場 徳島文理大学薬学部

徳島市山城町西浜傍 180

（交通：市バス，徳島駅より文理大前行）
または山城団地行，文理前下車）

議義題目・講師

第 1 日

1. 微量成分測定の困難性

パネル司会（山口大理）林 謙次郎

- a. 原子スペクトルと環境試料の分析

（広島大理）山本 勇麓

- b. 吸光々度分析の限界

（岡山大理）桐 恭二

2. 困難性解決へのアプローチ

パネル司会 (広島大医薬) 中嶋 暉躬

a. 溶媒抽出

(広島大総合) 松尾 博

b. 選択性を持つ分析法

—臨床化学分析の場合—

(徳島大医) 斉藤 史郎

c. クロマトグラフィーによる分離

(東洋曹達) 橋本 勉

3. 分析機器の将来を占う

パネル司会 (徳島大薬) 下村 滋

a. アノードックストリップングおよび新しい電気分析の手段

(広島大総合) 今井日出夫

b. 光学機器の将来

(日立製作所) 保田 和雄

c. 分光分析における高周波誘導プラズマ

(日本ジャーレルアッシュ) 辻野 隆三

d. 分離分析の未来について

(島津製作所) 坂田 衛

第2日

1. 大気汚染成分分析の問題点

日本分析化学会前会長 (都立大工) 荒木 峻

2. 水中成分のトレースキャラクタリゼーション

日本分析化学会会長 (金沢大理) 木羽 敏泰

機器展示

会期中機器の展示をいたします。25日午後は実際に機器を扱っていただきます。その際試料の測定希望、質疑があれば承ります。

会費 (テキスト代を含む)

会 員 (維持会員を含む) 12 000円

非会員 15 000円

学生会費 8 000円

テキストのみ (送料とも) 5 000円

申込方法

氏名、勤務先、同所在地、連絡先、および会員資格の有無を明記の上、会費を添えてお申し込み下さい。

申込締切 7月31日 (月)

申込先 〒770 徳島市南常三島町2 徳島大学工学部

応用化学科

池田早苗 [電話(0886) 23-2311]

(内線 585 又は 471)]

注意 ①主催・共催学協会の維持会員の会社の方は会員として扱います。

②講師その他にやむお得不い事情が生じた場合は一部変更があるかもしれませんのでご了承ください。

③会費の払いもどしはいたしません。

第10回高温材料技術講習会、日程表

—無機材料のバインダーと接着—

主 催 社団法人 窯業協会(高温材料部企画委員会)

日 時 昭和53年8月30日(水), 31日(木)

会 場 東京・光陽社ビル会議室

(東京都荒川区東日暮里 5-48-5 電話 03-803-1241)

第16回高温強度シンポジウム講演募集

主催: 日本材料学会 協賛: 日本鉄鋼協会, ほか

期 日 昭和53年10月13日(金), 14日(土)

会 場 京都大学楽友会館 (京都市左京区吉田近衛)

講演申込締切 8月12日(土)

前刷原稿締切 9月16日(土) (講演申込者には本会より所定の原稿用紙を送付します)

申込方法 B5判随意用紙に演題, 講演者氏名, (連名の場合は発表者に○印), 所属, 連絡先, 講演概要(100字程度)を明記して下記へお送り下さい。

〒606 京都市左京区吉田泉殿町1の101

日本材料学会高温強度シンポジウム係

Tel. (075) 761-5321

EXHIBITION "Tecnologia Industrial Britanica"

1978年11月8日~17日 —Mexico City

下記エキシビションが11月8日~17日にメキシコシティにおいて開催されますのでご案内いたします。

"Tecnologia Industrial Britanica"

Petroleum and petrochemicals

Electrical power

Agriculture

Fisheries

Mining

Steel

Fertilisers

Machine tools

Transport-particularly rail

Port development

Health, scientific and educational equipment

Food processing and packaging

1. 開催予定日 1978年11月8日~17日

2. 場 所 The Palacio De Los Deportes, Mexico City

3. スポンサー The British Overseas Trade Board 及び The Economic Affairs Committee of Canning House

4. オーガナイザー Industrial and Trade Fairs International Limited of Solihull

5. 期限がせまっておりますので希望のかたはお早目に下記宛お申込み下さい。

Industrial and Trade Fairs International Limited Radcliffe House

Blenheim Court, Solihull

West Midlands B91 2BG

ENGLAND

Tel: 021-705 6707

Telex: 337073

Cables: Indatfa Solihull

SIXTH INTERNATIONAL VACUUM METALLURGY CONFERENCE ON SPECIAL MELTING AND METALLUR- GICAL COATINGS

CALL FOR PAPERS

標記国際会議が明年4月に米国 San Diego において開催されます。本会は Coordinating Sponsor として本会議に協力することになっております。多数の論文提出があることを期待いたします。

Technical papers reporting on significant advances in the theoretical, practical, industrial applications, novel and economic aspects of special melting and metallurgical coatings are invited from international leaders in these fields for developing an effective conference program.

SPECIAL MELTING

Special melting includes primary melting of metals and alloys in vacuum furnaces; refining, alloying, homogenization and controlling temperature of molten metal charge using vacuum, gaseous mixtures, injection of various ingredients; recycling and recovery of metallics from scrap and other metal processing waste products, controlled solidification of ingots, cast shapes; production of specialty metals and alloy powders from melts; consumable and non-consumable remelting scrap consolidation; process automation, product evaluation, manufacturing economics and innovations.

Special melting processes to be highlighted should include but not be limited to vacuum melting, vacuum arc remelting, electroslag casting of simple and complex shaped products, electroslag hot topping; melting, casting, refining, remelting using plasma heat, electron beam heating, laser and other heat sources, powder production, single crystal growing and directional solidification components.

METALLURGICAL COATINGS

Films and coatings are an essential part of today's materials technology in a variety of applications from corrosion and wear resistant coatings to the fabrication of electronic devices which use some physical property (electrical, galvanomagnetic, optical) of the coating. A variety of fabrication techniques (e.g., physical vapor deposition, evaporation, sputtering, vapor phase growth, electrodeposition, electroless deposition, plasma or flame spraying, immersion, hot dip, anodization) are used to produce these coatings. Furthermore, in many cases, the structure and properties of the coatings are ultimately related to the processing variables and the substrate.

Papers are requested on various aspects of the fabrication, structure/property relationships and applications of films and coatings for metallurgical, engineering, nuclear, electronic, energy conversion, including solar energy research, and electronic devices as well as in newer high technology areas. Papers can deal with different aspects; for example: basic questions (such as reactions at the sub-

strate-deposit interface, imperfection in the deposit, etc.), diagnostic techniques (e.g., in situ gas composition analysis during chemical vapor deposition, electrical measurements to reveal inhomogeneities, etc.), as well as structure/property relationships and device applications. Papers will be grouped into sessions according to end use.

Abstracts of technical contributions of 200 words identifying paper title, authors(s), and author(s) affiliation should be forwarded to:

For Special Melting

Dr. G. K. Bhat

Carnegie-Mellon Institute of Research

4400 Fifth Avenue

Pittsburgh, PA 15213

Telephone: (412) 578-2000

For Metallurgical Coatings

Dr. R. F. Bunshah

6532 Boelter Hall

University of California

Los Angeles, CA 90024

Telephone: (213) 825-2210

Deadline for receipt of abstracts is October 15, 1978. Conference will be held in San Diego, California, April 22-29, 1979. Parallel sessions will be held and Proceedings of Meeting are planned for publication. Plans are being made for exhibits and Ladies' Programs (more information to follow).

INTERNATIONAL CONFERENCE ON MARTENSITIC TRANSFORMATIONS

(ICOMAT-79) 論文募集

1. 日時 1979年6月24日～29日

2. 場所 Cambridge, Mass., USA

3. スコープ

-Thermodynamics

-Crystallography and structural mechanisms

-Nucleation and growth of first-order transformations

-Precursor phenomena and phonon softening effects; displacive second-order transformations

-Transformations in alloys with low stacking-fault energy

-Reverse martensitic transformations

-Thermoelastic growth

-Superelasticity

-Shape memory and related phenomena

-Mechanical behavior and aging response, when used to derive information about the transformation or the resulting structure. Work designed primarily to understand the mechanical properties of martensitic alloys is more appropriately discussed at conferences devoted to mechanical behavior.

4. 使用語 英語

5. 投稿及び会議参加希望者は申し込み用紙を至急下記宛お申し込み下さい。

Professor Walter S. Owen, Head
Department of Materials Science
and Engineering
Massachusetts Institute of Technology
Cambridge, Massachusetts 02139, USA

Ladle metallurgy,
Cleanness of steel.

4. 用語 英-仏-独 (この3カ国語の同時通訳があります)
5. 会議のほか ポスターセッション, テクニカルエキシビション, 工場見学など
6. 参加費 900 フラン (プレプリント, プログラム昼食代を含む)

PHYSICAL CHEMISTRY AND STEELMAKING

1978年10月23日~25日

International Conference on the Physical Chemistry of Iron and Steelmaking organized by SFM, IRSID, ATS

1. 日程 1978年10月23日~25日
2. 場所 パレ・デ・コングレ, ベルサイユ (フランス)
3. テーマ Behaviour of the Charge in the blast furnace,
Refining reactions of hot metal,

参加ご希望のかた, 又詳しい資料をご入用のかたは申込書がありますので, 鉄鋼協会 (電話 03-279-6021, 担当 木村) まで至急ご連絡下さるか, あるいは下記宛直接お問い合わせ下さい.

MR. F. PICHON

Secrétaire Général

SOCIETE FRANCAISE DE METALLURGIE

5, rue Paul Cézanne

75008 PARIS (France)

秋季大会宿泊のご案内

標記大会期間中の宿泊について下記の通り富山市旅館事業協同組合で宿泊の斡旋をすることになりましたので, ご希望者はお申込み下さい. なお大会の開催される頃は観光シーズンのためお早目にお申込み頂き, 出来得れば備考欄に第2希望の宿泊クラスをお書き添え願います.

- 宿泊料金クラス**
- (1) 日本旅館 (1泊2食, 税・サービス料込, 相部屋)
 - A 4,500円 B 5,500円 C 7,500円
 - (2) ビジネスホテル (食事なし, バス付, 税・サービス料込)
 - D 4,000~5,000円 (シングル)
 - E 7,000円 (ツイン2人で)
 - (3) ホテル (食事なし, バス付, 税・サービス料込)
 - F 5,200円 (シングル)
 - G 7,400円 (ツイン2人で)

申込み方法: 下記申込書式例により宿泊予納金1人1泊につき 3000 円を添え現金書留にて, お申込み下さい.

・グループで同一旅館・ホテルに宿泊をご希望される場合は, その旨を備考欄にご記入下さい.

・申込書到着後宿泊券をお送りしますから, 当日必ずご持参下さい. 宿泊料金との差額については旅館ホテルにてご精算下さい.

申込み締切: 9月14日(木) なお, お申込み後の取消, 変更は9月22日(金)までにご連絡あるものについては宿泊予納金を返金いたしますが, それ以後は返金いたしかねますのでご了承下さい.

申込み先: 〒930 富山市丸の内1丁目3番10号 (協栄生命富山ビル2F)

富山市旅館事業協同組合 Tel. 0764 (41) 4797

日本鉄鋼協会・日本金属学会・秋季大会宿泊係

(申込書式例)

日本鉄鋼協会・日本金属学会秋季大会宿泊申込書

氏 名	連絡先〒					TEL	
(宿泊券送付先)	勤務先					TEL	
ふりがな (氏名)	希望クラス	宿 泊 月 日					(宿泊予納金)
		10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	
	A B C D E F G						3000円× 泊× 名 =送金合計 円
富山駅到着予定時刻		月	日	時	分頃	列車名	号
備考 (第2希望クラス望その他)							